

公表

事業所における自己評価総括表

○事業所名	スペースゆう			
○保護者評価実施期間	令和 6 年 12 月 20 日		～	令和 7 年 1 月 20 日
○保護者評価有効回答数	(対象者数)	24	(回答者数)	23
○従業者評価実施期間	令和 6 年 11 月 28 日		～	令和 6 年 12 月 5 日
○従業者評価有効回答数	(対象者数)	8	(回答者数)	8
○事業者向け自己評価表作成日	令和 7 年 1 月 20 日			

○ 分析結果

	事業所の強み(※)だと思われること ※より強化・充実を図ることが期待されること	工夫していることや意識的に行っている取組等	さらに充実を図るための取組等
1	職員の支援の質と専門性が高く、保護者の満足度が非常に高い。	<ul style="list-style-type: none"> ○ 毎日午後イチ会議を開催し、スタッフ間で児童情報を共有し、個別支援計画に基づく一貫した支援の徹底。 ○ 外部研修参加を奨励し、参加者による研修復命を通して法人グループ全体の共有、および知識の定着と活動の実践。 ○ サービス記録や送迎時のコミュニケーション以外にも親の会や家族支援などを通じた保護者との密な連携。 	<ul style="list-style-type: none"> ○ 発達支援・行動療法・感情コントロール支援などのスキルアップ研修を定期的実施。 ○ 保護者向け勉強会を開催し、支援の考え方や家庭での関わり方(おうち療育)を共有し連携を強化。 ○ OJT制度をより発展させ、期間を定めて目標をより明確にしたプログラムを導入。
2	施設的环境が清潔で快適、活動スペースも十分確保されている。	<ul style="list-style-type: none"> ○ 毎日活動後にアルコール消毒やアルカリ電解水の空中散布など、継続した感染症流行防止に努めた衛生管理の徹底。 ○ 季節や活動に応じて空間レイアウトを定期的に見直し、適切な環境を整備(巧技台配置やプレイルーム内情報など)。 ○ 整理整頓ルールよりも整っている画像を貼付し、子どもが視覚的に理解して自主的に整理しやすい環境の整備。 	<ul style="list-style-type: none"> ○ 肋木やクライミングウォールなど、感覚統合を意識した遊びスペースを導入。 ○ 定期的にアンケートを実施し、保護者や子どもの意見を環境改善に反映。
3	個別支援計画が適切に作成・運用されている。	<ul style="list-style-type: none"> ○ 個別トピックが議題に上がる度に計画を見直し、年次や発達レベルなどを加味しながら達成状況に応じて更新。 ○ 希望の保護者には随時面談を実施し、家庭の様子やニーズを把握すると共に計画に反映。 ○ 目標の先には何があるかを意識した道すじづくり。どんな課題にも3ステップを意識した設定。 	<ul style="list-style-type: none"> ○ スモールステップをより細かく設定し、段階的に達成感を得られる仕組みを導入(例:「自分で着替える」→「シャツを一人で着る」)。 ○ 家庭との連携を強化し、家庭での支援も組み込んだ計画を作成(例:「朝の準備をスムーズにする練習」)。

	事業所の弱み(※)だと思われること ※事業所の課題や改善が必要だと思われること	事業所として考えている課題の要因等	改善に向けて必要な取組や工夫が必要な点等
1	地域との交流が少なく、外部の活動機会が不足している。	<ul style="list-style-type: none"> ○ 安全面への配慮が必要で、外部の子どもとの交流活動の企画が難しい。また同校の場合は、関係性も加味。 ○ 地域の児童館や放課後児童クラブとの連携が不十分。 ○ コロナ禍の影響で地域交流の機会が減少。 ○ 地域活動の情報不足、連携すべき団体が不明確。 	<ul style="list-style-type: none"> ○ 児童館や放課後児童クラブと定期的に情報交換を行い、合同イベントの可能性を模索。 ○ 事業所主催の工作教室やゲーム大会などの地域交流イベントを企画し、地域の子どもの参加できる機会を拡充。 ○ 近隣の小学校と連携し、特別支援学級の子どもたちとの合同活動を実施。
2	保護者向けの支援プログラムや交流の場が不足している。	<ul style="list-style-type: none"> ○ 現に親の会参加の保護者同士は、交流の必要性を強く感じ意欲も高い。一方、子育ての悩みはあっても大人数の場や自発的な参加が苦手の保護者も多数。 ○ 保護者の参加可能な時間帯の選定(以前は平日午前)。 	<ul style="list-style-type: none"> ○ Zoomなどを活用し、夜間や土日にペアレント・トレーニングや勉強会を開催。 ○ 負担感を減らすため、短時間で気軽に参加できる「お茶会」や「ミニ座談会」を定期開催。
3	安全管理マニュアルや災害訓練の周知・実施がやや不足している。	<ul style="list-style-type: none"> ○ マニュアルはあるが、保護者への説明や周知が不十分。 ○ 指定の避難訓練の実施頻度の少なさ。 ○ 災害時の避難ルートや対応方法の周知 	<ul style="list-style-type: none"> ○ マニュアルを分かりやすくまとめた資料を配布し、保護者が確認しやすい形で提供。 ○ 年2回の避難訓練以外に、月1回のミニ避難訓練を実施し、子どもと職員が実際の動きを体験。 ○ 避難ルートや対応方法をイラスト付きで施設内に掲示し、視覚的に理解。